



あゆみだより

令和7年度第17号
令和7年10月21日発行
沼津市立沼津高等学校・中部



秋の深まりとともに、校内には静かな熱気が満ちています。ハロウィンの装いが街を彩るこの頃、高校1年生の総合的な探究の時間「求道」で、クラス代表による学年中間発表を行いました。生徒は自分たちの「問い」と向き合い、対話と思考を重ねてきました。講師としてお越しいただいた静岡大学グローバル共創科学部の山本隆太准教授に加え、学生さん2名も来てくださいました。中間発表会は、探究の過程を振り返り、仮説と検証の軌跡を言葉にする場です。試行錯誤を通して、未完成ながらも確かな「知の輪郭」を描き始めています。

知の輪郭を描く秋 - 高1「求道」中間発表会 -

16班
LFM

「みやこ庵」とコラボして商品開発

「地域の特産品を活かした商品を開発すること」を目的とした商品開発。沼津の和菓子店「みやこ庵」とコラボ商品（白あんとみかんが抹茶の生地にもまれた、抹茶みかん大福）の開発、販売を依頼！現在試作中で、学校の食堂で販売予定。

LFM...Local Food Makers

☆みやこ庵×市沼のコラボ商品発売を決定!!

① まちみかん大福



- ・Instagramで宣伝
- ・みやこ庵、市沼食堂で販売



【講評】楽しめることと地域課題を掛け合わせる姿勢を高く評価。大学では研究として楽しくないこともやるが、高校の探究では楽しさ×地域課題の掛け算が良い。

23班
狩野川

狩野川下流域のごみ問題とその要因

狩野川は、沼津の観光資源である海に繋がっていたりと、沼津の観光面において重要な役割を果たす。その面で、狩野川は港に近かったり、上流から流れてきたりなどで、ゴミのポイ捨てが多いのではないかと？ゴミの種類や場所を調べた上での解決方法を考えていきたい。

夏のフィールドワークの概要

8月2日(土) 狩野川

実際に狩野川を訪れ、地図に具体的なゴミと場所を書きながら観察をした。



フィールドワークの成果

ペットボトルサイズのゴミが多かったがそれ以上の大きさのゴミは少ない。



問いの変化・深まり

以前の問い

狩野川の水辺の環境を綺麗にするためには

↓

狩野川のゴミを今より減らすためには

【講評】フィールドワークの結果を受けて「問いを変える」という柔軟な探究姿勢を評価。仮説が崩れた、新しい視点を得た際に問いを見直すのは、まさに探究の本質。フィールドワークを通して事実 → 仮説 → 検証 → 再設定の流れができています。

33班
パッション
市立

仲見世商店街の現状と活性化の可能性

仲見世商店街はなぜお客さんが少ないのか？フィールドワーク（振興組合事務所へのインタビュー）を通して、現状と課題を整理。活気がある商店街にするために、若者が集まる商店街にする方策を考えたい！

【活気がある沼津にするには】

若者が集まる商店街にするべき



地域のイベントに参加する学生を増やすにはどうすれば良いか。

【講評】実際のイベントと結びつけた活動は非常に良い。探究としては、「イベントの効果を測る」こと（来客数・年齢層・SNS反応など）に発展させるとよい。深掘りの中でデータの裏付けを強化できるとさらに説得力が増す。今後は数値分析にも挑戦を。



42班 チーム なぐら

スポーツを「健康」ではなく「産業」として捉える地域探究

沼津市の担当者から「スポーツは健康ではなく産業であるというイメージを持ってほしい」と伺った。スポーツは産業、ビジネスである!! 沼津の発展のためにスポーツの大きなイベントを開催するには、予算面その他の問題がある。日本のスポーツをきっかけに、日本を、沼津を知ってもらうにはどうしたらいいか?

スポーツを通して沼津を発展させよう

沼津市立沼津高等学校
チームなぐら

2025年10月14日

観察・記録した事実

・沼津市としてのスポーツ関係の目標

今までスポーツは市民が楽しむものだった...スポーツ=健康...
スポーツは産業、ビジネスである!!

海外からも沼津市に限らず日本のスポーツをきっかけに日本を知ってもらおう。スポーツ目当てで来た人に沼津を知ってもらおう。

スポーツ+観光=産業

気づき・考察

・沼津の発展に関しては、スポーツの大きなイベントを開催したいなど希望はあるが、予算やプロスポーツ側との予定が合わないためにできないなどかなり問題がある。

・イベントと言っても人件費や用意する場所代、開催する日程の都合などで大きなイベントになるほど開催が難しくなる

【講評】「見えないものを見える化」する発想が良い。人を集める工夫や他グループとのコラボも有効。(フェンシングは未経験で新鮮)→未知のものを見せることが地域活性化の起点になる。自分たちも知らないことを発信する姿勢が素晴らしい。

51班 まつげ ちゃん

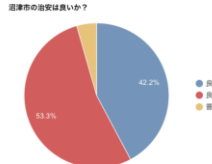
地域の治安を守る仕組みと改善策

沼津市の治安はいいのか? 沼津駅南口で通行人にインタビューをしたところ、治安が良くないと答えた人の方が多かった。具体的に挙げられた現地も確認した。この調査で分かったこと、気づいたことをわかりやすくまとめ、その問題の解決策を警察官に聞いてみたい。

観察・記録した事実

インタビューをして治安が良くないと答えた人の方が多かった。

治安がいいかどうかを聞いてその根拠やこれからどうしていけばいいかを聞いた



【講評】「治安=抑止」だけではなく、地域の魅力を育てる考えを持つとよい。「治安をどうつくるか」という構造モデルを整理して発表できると強い。真面目なテーマだが、「楽しみながら考える」「自分たちが面白いと思う角度で探究すること」も大事。面白さを見つけないがら課題の背景を楽しんで考えてみてほしい。



65班 のび太

アート×商店街の活性化

アートが目的で商店街を訪れる人はいれるのだろうか? 商店街で通行人を観察した。利用客は年配の方が多い。シャッターが降りている店が多く、行きたいと思えない。アートで沼津を活性化させることには限界がある。では、どうすれば……?



【講評】平日・休日の比較や滞在時間の観察など、丁寧なフィールドワークが素晴らしい。まちづくりにアートを生かそうとする発想が魅力的。スマホやAR/VRなど技術とアートを掛け合わせる発想に期待。今後の展開が楽しみ。



静岡大学グローバル共創科学部山本隆太准教授より

【講評】6チームの発表を通して、それぞれに独自の探究の方向性や課題の見つけ方が見えた。自分たちなりの問いを立てて取り組んでいることがよく伝わった。各チームに共通しているのは、「楽しみながら考える」「自分たちで変えていこうとする姿勢」。次回に向けて、データの裏付け・理論の導入・他グループとの連携という3つの観点を意識してみてください。探究は「個別」でありながら、「横のつながり(コラボ)」を意識すると、さらに地域にインパクトを与えられる活動に発展する。高校生にしかできないアクションとして、スマホゲームや音楽、AR/VRなどの技術、アートとの融合などの表現の方法も、魅力的な発表につながる。

【今後に向けた全体アドバイス】

- ☆データと理論を取り入れる⇒定性的な意見に加え、数値・資料・既存研究などを組み合わせると探究が深まる。
- ☆「見える化」×「伝える工夫」⇒グラフ・地図・映像・体験型展示などを使って、発表の魅力と説得力を高める。
- ☆コラボレーションを意識する⇒テーマを超えてアイデアを掛け合わせると、より地域に影響を与える実践へ発展する。
- ☆技術と表現を活用する⇒AR、VR、動画、デザイン、アプリなど、高校生だからこそ柔軟に使えるツールを積極的に導入。
- ☆楽しさと意義の両立⇒探究の原点「面白い」「やってみたい」に地域の課題解決という社会的意義を掛け合わせていく。